

# 教育研究所だより

No.232 令和5年1月13日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳  
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)  
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237  
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp  
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu\_index.html

## 11月の研修・講座

### 第3回守山市初任者研修



令和4年11月18日(金)、第3回守山市初任者研修を実施しました。

午前は、守山中学校 岡川 健太 教諭による数学科の授業動画を視聴し、授業研究会を行いました。

「本時の目標に迫る授業実践であったか」という視点で、成果と課題、改善策をグループで話し合ったり、学校教育課 松井 俊也 指導主事から授業づくりのポイントについての指導助言をいただいたりして、教科指導や支援のあり方についての知見を深めることができました。



午後は、保育園・幼稚園・こども園所属の初任者も参加し、滋賀県総合教育センター 境 園子 係長から「特別支援教育」に関わる『子ども理解と支援』についてのご講義をいただきました。アイスブレイクを通して、困っている子どもの感覚を実際に体験することで、今後のよりよい支援のあり方について気づかせていただくことができました。



#### 【初任者の感想(一部抜粋)】

- ・授業研究会では、他の先生と話すことで、自分の気づかなかった視点や大切な視点を得ることができた。また、「授業研究会の参加の仕方や授業の見方」を知ることができたので、今後に活かしていきたい。
- ・どの授業においても「めあて」をしっかりとち、「ゴール」を明確にして、子どもたちに意味のある学びを意識しないといけない。教師は「ふ⇒た⇒め」を意識し、単元全体を見通して授業計画を大切にしたいと感じました。
- ・印象に残った言葉は「自覚者が責任者になる」という言葉である。「気づいたら行動する」ことは、生徒のためになるが、そのままにしておけば生徒を不安へとつないでしまう。生徒が安心して過ごせるような環境を整備したい。
- ・幼稚園でも、不安の気持ちや困ったことがある時にうまく言葉にできず、「お腹が痛い」や「しんどい」などと、体調不良として訴える姿があります。単純な不調として流さず、どのようにしんどいのか詳しく聞き取りながら、「何かの原因や不安があるかも」という視点で関わっていくことが必要だと感じました。

### 幼児教育研修講座③



令和4年11月29日(火)、幼児教育研修講座③を実施しました。

滋賀大学非常勤講師、安井恵子先生をお迎えし、「乳児期の子ども理解について」と題して、お話をいただきました。講座では、乳児期の子どもの保育における適切な環境づくりや、非認知能力を育てる際に大切にすることなどを、写真や玩具を使って、大変分かりやすく教えていただきました。

#### 【受講者の感想(一部抜粋)】

- ・2歳児を担当していますが、子どもの発達を理解したり、保護者支援においては、子どもの姿を具体的に保護者の方に伝えたりするなど、丁寧な関わりをしていきたいと思いました。
- ・乳幼児期の経験がその先の人生の土台になるということを強く感じました。子どもの心が温かく、豊かになるよう、保育していきたいと思いました。



子どもは、お父さんやお母さんが大好きです。だから、お父さんやお母さんに認めてほしい、褒めてほしいという思いでいっぱいです。ただ、その思いが強くなりすぎると「一番でないとなら認められない」「〇〇ができないと愛してもらえない」といった強迫観念を抱き、必要以上に「いい子」でしようとする子どもがいます。自分の気持ちを言えず、自信が持てず、もやもやした気持ちが蓄積して学校に行き渋るようになることもあります。そんな時、子どもに寄り添うヒントにしていただけると嬉しいです。



子どものチャレンジを見守るときは、



「明るく、元気に、前向きに」という理想を押しつけられると、誠実であろうとする子どもほど「ネガティブな自分はダメだ」「失敗はしてはいけない」と思い込み、「いい子」でしようとします。それは、大人が子どもに失敗させないようにかかわるからです。

しかし、子どものチャレンジに失敗はありません。あるのは体験と学びです。チャレンジの結果が意図通りでなくても、「いい感じだったよ！次はどうか?」「いい体験だったね！やってみたらわかったことだよ」など、やろうとしたことを承認し、次に活かすように促すことで、子どもの気持ちは楽になるでしょう。

「あなたはこれにしておきなさい」というような決めつけを繰り返されることで、子どもはどんどん自分の本音を見失っていきます。子どもの主体性を尊重しようとするあまり、気持ちや考えを聞く質問をしても、答えに手間どる姿を見ると、大人はつい先に口を挟んでしまいがちです。しかし、本当に子どもの主体性を育むために大人がすべきことは、多少時間がかかっても信じて待つことです。

どんな小さなことでも「自分で考えて自分でできた!」と感じられる体験が、真の自己肯定感を育み、自分の人生を力強く生きる子どもへと成長させるのです。子どもの頃から「自分で決める習慣を持つこと」が大切です。「自分で決めていいんだよ」「自分で決められるんだよ」と、子どもの意思を尊重するかかわりを増やしていきましょう。

参考 月刊学校教育相談 2021年10月号 石川尚子さんの文章(P18~21)より



### 郷土守山に学ぶ研修講座Ⅲ

11月15日(火)開催

ふるさと再発見 未来へつなぐ環境都市”守山” ～環境センターからこれからの環境を考える～

今回は、もりやまエコパーク交流拠点施設と環境センターにお邪魔しました。施設研が腕は、担当者の方の説明も丁寧で、大変興味深く分かりやすいものでした。参加者からもいろいろと質問があり充実した研修となりました。

「環境を考える」にふさわしい研修でしたが、参加者が少なかったことが大変残念でした。研修企画はもちろんのこと、より多くの人に周知していく手立てを工夫していく必要があると感じました。次回は、3月上旬に「蓮正寺」さんにお邪魔する予定です。

<参加者の感想から>

- とてもおもしろい内容で満足でした。参加者が少ないのが、残念でした。平日の午前だったからでしょうか。
- ごみの処理方法が分かりやすかったです。



## 第6回 中学生生徒会サミットを開催しました



令和4年12月10日(土)、守山南中学校に市内6中学校の生徒代表者が一堂に会し、第6回生徒会サミットを開催しました。今回は、新生徒会として発足したばかりのフレッシュなメンバーが集いました。

今回のサミットの目標は、「相互理解を深め、これからの1年間、生徒会サミットとして何を取り組んでいくのか」の合意形成を図ることです。

まず、「先輩に学ぶ」と題し、生徒会サミットの前身であるクローバープロジェクトの時に活動していた高校生の先輩から、体験談を聞きました。勉強と部活動、生徒会活動との両立という、中学生ならではの大変さがある中で、みんなで協力して活動することの楽しさや、やり遂げた時の充実感など、活動を通して得られたよろこびについてお話をいただきました。

その後、各校からの活動報告をもとに、グループ討議、全体協議を行いました。各校からの活動報告では、日頃課題として感じていることも発表され、この発表を受け、市内みんなで取り組むべき課題や、今後の活動方針を討議しました。

今回も、青少年育成市民会議の皆さんにも参加いただき、日ごろ感じている大人の目線からも意見をいただきました。和気あいあいとした和やかな雰囲気の中、活発な議論が行われ、「交通マナー」や「スマホ」が課題として挙がりました。



全体協議では、「このサミットは、もう6回目を迎えている。これからの私たちの時代では、先輩たちの取組を受け継ぐとともに、より困難なことに挑戦していったらどうか」という熱い思いが発表され、全員一致で「交通マナー」と「スマホ SNS」に取り組んでいくことで合意形成を図りました。

これからの1年間、市内6中学校が協力してこれらの取組を推進してくれることを期待しています。

サミットの後半からは、教育長にも参観いただきました。閉会行事では激励の言葉もいただき、子どもたちにとって、これからの活動意欲を高める、たいへん充実した時間となりました。

なお、会場校でもあり当日の運営も担ってくれた守山南中生徒会のホスピタリティあふれる対応は、大変すばらしいものがありました。彼らの活動が今回のサミットを下支えしてくれていました。ありがとうございました。

### <参加生徒感想より>

○スライド発表が少しグダグダになってしまいましたが、何とか自分たちの思い通りに進められました。班のグループワークでは、みんながしっかりと話し合いに参加し、最後のスローガン発表の時もみんなで協力したりして、今回の生徒会サミットはすごく楽しく、自校の活動に活かしていきたいと思いました。

○他の中学校の人と関わってよかったです。いろんな人と話し合いができ、今後の学校生活をより良いものにするためにはどうすればよいのかをしっかりと考えることができました。新しい意見に触れ良い刺激になりました。



次回 第7回生徒会サミット 開催予定

日時:令和5年6月3日(土) 午後1時15分から

場所:生涯学習・教育支援センター(エルセンター)

## 令和4年度 守山市教育研究発表大会のお知らせ

日時：令和5年（2023年）2月15日（水）  
午後2時～午後4時45分（受付：午後1時30分から）  
場所：守山市民ホール 小ホール

入場  
無料

開会行事	午後2時から午後2時10分
全国学力・学習状況調査の考察等	午後2時10分から午後2時25分
教育研究発表	午後2時25分から午後3時10分
・指導力向上に関する研究1 「より多くの子どもが主体的に学ぶ授業づくりの創造を目指して」	
・指導力向上に関する研究2 「問題解決・探究における情報を活用する力の育成を意識した中学校社会科の授業のあり方」	
休憩	
<b>教育講演会</b>	<b>午後3時20分から午後4時40分</b>
閉会行事	午後4時40分から午後4時45分

## 演題：「子どもの自尊感情をどう育てるか」

講師：近藤 卓 氏（日本ウェルネススポーツ大学教授）

自尊感情は「生まれてきてよかった」「自分にはできることがある」等、自分自身を  
かけがえのない価値ある存在とする感情であり、学習意欲や良好な人間関係を築こう  
とする力の源となります。

自尊感情が育まれることにより、子どもが自他の良さや違いを認め、尊重する具  
体的な態度や行動につながっていくものであり、失敗しても立ち直る心の育成にもつ  
ながっていくものとされています。

「子どもの自尊感情をどう育むのか」ぜひ、一緒に学びましょう。



近藤 卓（こんどう たく）